様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：１７７０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００７４７

研究課題名（和文）体育大生のICTを活用した英語発信力育成プログラムの構築

研究課題名（英文）Establishment of an English communication skills development program utilizing ICT for physical education students

研究代表者
吉重　美紀（Yoshishige, Miki）

鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・教授

研究者番号：８０１５６２６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：　体育大生の英語学習におけるタブレット端末などICTの利用状況に関する調査を実施し、英語の情報発信におけるICTの利用方法を明らかにした。また、英語のスピーチ練習や学生同士の会話練習の録音、音声と画像を伴う成果物の作成による発表など、英語の実践的活動にICTを活用し情報を発信させることができた。
　学生にICTを活用したスポーツ関連情報を発信する成果物を作成させ、体育大学の英語発信力育成プログラムを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学術的には、英語教育でのICT利用に関する研究は、小張（2006）や小張・木村（2006）等あるが、体育・スポーツを専攻する学生を対象とした研究は見られず、体育大生対象の英語発信力育成プログラムを実施・構築できたことは意義がある。また社会的には、東京オリンピック・パリオリンピック等スポーツ選手が国内外の試合や大会等で海外選手と競う現在、体育大生がICTを活用して英語学習を継続し、英語で競技等に関する発信ができたことは意義が大きい。

研究成果の概要（英文）：1)　We conducted a survey on the use of ICT, such as tablets and smartphones, in English learning by sports-majored students, and clarified how ICT is used in their transmission of information in English.
2) We were able to have students transmit information by using ICT in practical English activities, such as recording English speech and conversation practice among students, and making presentations by creating artifacts with audio, images, and video.
3) We developed an English communication skills program at the university of physical education by having students create artifacts to transmit sports-related information using ICT.

研究分野：English for Specific Purposes

キーワード：ICT　体育　タブレット端末　英語発信力　成果物

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）平成 28 年度勤務校の LL 教室をタブレット端末利用の多目的コミュニケーションルームへ更新することとなり、資料収集のため県内外の大学を訪問した。関西のある私立大学はタブレット端末用教室と CALL 教室の両方を備え、タブレット端末、CALL システムともに長所と短所がある事が判明した。また平成 28 年 10 月開催の九州地区英語教育研究大会（鹿児島大会）では「教育機器を活用した英語指導」に関する分科会で指導助言したが、中学校のテレビ会議を使った海外との交流授業や高校のタブレット端末を利用したスピーチテストなど、既に学校現場では ICT が活用されている現状を知った。勤務校で長年新入生に対する英語プレイスメントテストを実施してきたが、筆記テストからオンラインテストに変更となり、テスト終了直後学生のモニターに結果が表示され、時間効率の良さを実感した。そこに学生のスマートフォンやタブレット端末の常時携帯を目にし、これらモバイルツール等 ICT を英語学習に、特に情報発信面でうまく利用できないかという本研究の着想に至った。

（２）平成 18,19 年度に実施された文部科学省委託事業の調査研究では、ICT を活用し授業を行った教員の 98%が「関心・意欲・態度」の観点で効果を認め、ICT 活用の頻度の高い教師ほど ICT が授業の質を高め授業改善に役立つと強く感じていることが明らかとなった。また児童生徒に対する調査によれば、学習に対する積極性や意欲、学習の達成感など全項目で ICT を活用した授業の方が評価は高い。大学生を対象にした研究では、小張他(2007)、中野(2008)、小張他 (2010) など、この約 10 年間にテレビ会議システムやモバイル利用の英語教育に関する研究が行われ、e ラーニングの学習効果や携帯電話と CALL システムを併用した英語教育の可能性が示唆されている。ICT の特徴の一つにインタラクティブ性の活用があり、インタラクティブ性が高ければ、より授業のし易さは向上すると考えられている。またオリンピックなどスポーツ選手が国内外で英語を駆使する機会が増えてきたため、本研究では体育大生が英語で積極的に情報発信できるようタブレット端末等 ICT をインタラクティブに活用しながら英語発信力の育成を目指すこととした。

２．研究の目的

（１）本研究の目的は、ESP（English for Specific Purposes）教育、特に体育学やスポーツを専攻する大学生の英語教育の一環として、学生の専門の競技や試合結果、大学生活、学生寮や地域等身近な話題について、海外からの選手や指導者に英語で主体的に情報発信できるよう、タブレット端末やスマートフォンなど ICT を利用した英語発信力育成プログラムを構築することである。具体的には、次の３つを目的とする。

①英語で情報発信するための様々な ICT の利用方法について、学生の利用の現状と今後の活用方法について調査・研究する。

②学生に ICT を活用して情報を発信する成果物を完成させ、体育大学で実施可能な英語発信力育成プログラムを構築する。

③英語による成果物を、大学のホームページ等オンラインを使って、地域や社会へ情報発信し共有するシステムを検討する。

３．研究の方法

研究の方法については、申請時に次の過程で実施することを考えた。

調査　英語学習でのタブレット端末やスマートフォン等 ICT の学生の利用実態について

⇓　　⇓

実践　ICT を活用した英語学習：好きなスポーツ選手の映像に音声を入れる練習や、スピーチや会話をグループで録音し授業で聞かせる発表等の実践

⇓　　⇓

成果物の作成と発信　➤英語による情報発信力育成プログラムの構築

→オンラインに成果物を掲示（のこす）

→発表やテレビ会議を利用した海外交流協定校との交流授業

つくる　⇒　のこす　⇒　伝えあう：ICT 利用で教室外へつながる授業へ

➤英語による情報発信・共有システムの開発

４．研究成果

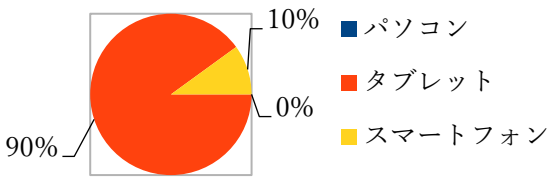
令和 2 年度：調査学生の英語学習におけるタブレット端末等 ICT の利用等に関する実態調査「英語学習における ICT 利用に関するアンケート」実施（本学と国立 K 大学）。

＜調査結果（本学）＞英語学習における ICT の活用（約 7 割活用）

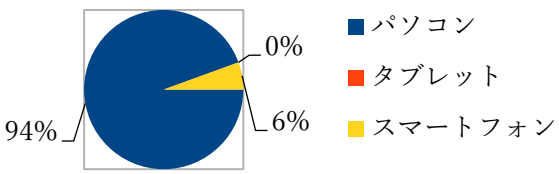
スマートフォンの活用：辞書・翻訳機能、リスニング、発音

タブレットの活用(9 割)：ビデオ通話、リスニング、発音

使用機器（本学）



使用機器（K大学）



令和 3 年度: 指導実践タブレット等 ICT を活用した 3 つの活動（ショートスピーチ／英文音読／デジタル学習環境（CheckLink 活用）の実践とオンラインテストの実施

1.　ショートスピーチ

対象：１年次生で高い競技力を持ち海外の大会等に参加する学生

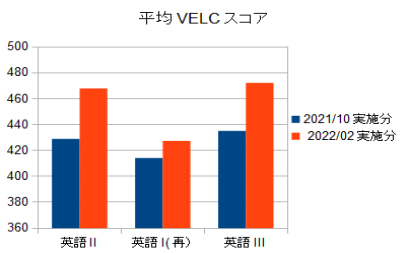
内容：専門の競技種目

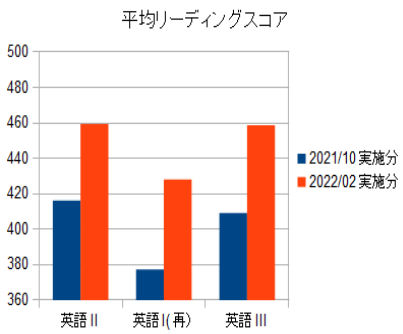
2.　英文音読

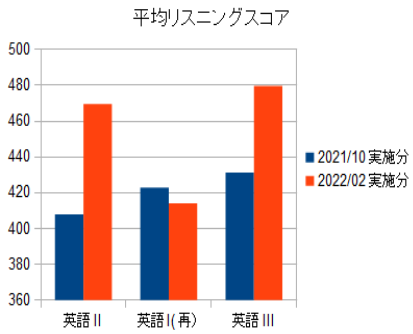
対象：英文音読が困難な再履修生

内容：音読指導、音読プレゼンテーションの実施とピア評価

3.　デジタル学習環境の活用：自宅学習でタブレット等使わざるを得ない環境の設定







＜結果＞オンラインテスト結果：受験者全体の平均点でリーディング 45 点、リスニング 42 点の上昇が見られた。

令和４年度: 成果物の作成と発表プロジェクトの実施。

Project ① My Experience:これまでの経験で他の人が経験した事のないような経験について英語で紹介

【学生の発表例：乗馬、有名な自転車競技場での試合、砂蒸し温泉、広島原爆ドーム/韓国訪問等】

Project ② My Favorites: My Favorite ( ), athlete, musician, actor/actress、comedian 等

【学生の発表例：声優、体操選手、TikToker, 芸人等】

Project ③ My Future Life： 1. 職業 or どこで働きたいか 2. どこに暮らしたいか（出身地、海外）3. 何歳で結婚し子供は何人 4. 将来したいこと等

成果物の作成と発表の要領：スライド３枚（表紙、地図や写真２枚、英文スクリプト）を作成

令和５年度：予定では、オンライン上に学生の成果物を挙げ、海外交流協定校等との交流授業を考えていたが時間的な制約もあり実施できなかったため、代替案として教室に米国からの交流研究員を招き、その前で ICT を活用して英語による発表や質疑応答を実施した。クラスでの発表時だけでなくグループ発表時にも、研究員が巡回し英語による質問等を行なった。教室に海外からのゲストが自分たちの発表を聞きに来ることで、学生は積極的に発表しようという姿勢が見られた。また発表後に令和３年度から実施してきたオンラインテストを実施したが、学生たちの英語力、特に発信に関連するリスニング力の向上が確認できた。

年度末の３月中旬には、勤務校で JACET 九州・沖縄支部の第３１回 ESP 研究会を開催し、これまでの研究成果を発表するとともに、九州管内の大学で長年 ICT を活用し工学部の学生を指導してこられた研究会メンバーにも発表して頂いた。この研究会は、鹿屋市教育委員会の英語指導主事を通して広く鹿屋市の小中高の英語教師にも案内してもらったおかげで、小中高の英語教員だけでなく ALT も参加し盛況であった。九州という限られた範囲ではあったが、大学教員の研究発表を小中高で英語を教える先生達にも聞いてもらう貴重な機会になった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 吉重美紀
２．発表標題 体育大生のICTを活用した英語発信力育成の試み
３．学会等名 第５回JAAL in JACET(日本応用言語学会）学術交流集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉重美紀
２．発表標題 ESPにおける英語の発信力--体育大生のICTを活用した発表から
３．学会等名 JACET九州・沖縄支部　第３０回ESP研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 吉重美紀
２．発表標題 体育大学におけるICT利用の実態とICT活用への試み
３．学会等名 大学英語教育学会（JACET）九州・沖縄支部　第29回ESP研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉重美紀
２．発表標題 ICTを活用した体育大生の英語発信力育成
３．学会等名 大学英語教育学会（JACET）　九州・沖縄支部　第31回ESP研究会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

令和６年３月１６日（土）勤務大学にて、大学英語教育学会（JACET）九州・沖縄支部ESP研究会の第３１回研究会を開催したが、鹿屋市教育委員会英語指導主事の協力をいただき、九州管内の大学教員だけでなく、鹿屋市内の小中高の英語教員およびALTも参加して、これまでになく多くの参加者を得た。研究会では、筆者の研究成果に関する発表のほかに、九州管内の大学で長年にわたりICTを活用して工学部学生を指導してこられた教員に講演いただき、ESP(専門英語教育）におけるICT活用の他の事例についても学ぶことができた。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	和田　智仁 (Wada Tomohito) (70325819)	鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・教授 (17702)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関